

## 事業完了（廃止等）報告書

### 調査研究期間等

調査研究期間	令和2年5月8日 ～ 令和3年3月15日
調査研究事項	<p>《委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究》</p> <p>I. 教育課程に関すること</p> <p>II. 広報・相談体制の充実にに関すること</p> <p>IV. 教職員の配置・研修に関すること</p> <p>VI. その他、夜間中学における教育活動充実にに関すること</p>
調査研究のねらい	<p>I. 教育課程に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者から若年層まで幅広い年齢層に対応し、学校行事を生かした主体的・対話的で深い学びを実現する学習カリキュラムの研究のため。</li> <li>・義務教育未修了者や既卒だが十分に義務教育をうけられなかった者など、学習経験や理解の度合いが大きく異なる生徒に対する効果的な指導を研究するため。</li> <li>・近年増加する日本語の全く分からない外国人生徒への初期指導から、社会で自立した生活をしていくために必要な日本語の習得までのカリキュラム開発を行うため。</li> </ul> <p>II. 広報・相談体制の充実にに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既卒者や不登校経験者へ夜間中学に関する幅広く情報提供するための広報の在り方や相談体制を研究するため。</li> <li>・外国人入学希望者の日本語の習得状況を把握した上で、クラス分けやその後の学習支援につなげられるよう、入学相談時からの夜間中学校専門員の活用方法を研究するため。</li> </ul> <p>IV. 教職員の配置・研修に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校経験者など、心のケアが必要な生徒の対応に係るカウンセラーの配置について研究をするため。</li> <li>・日本語での表現力が十分ではない生徒の学習や生活に関する相談を母国語で受けるなど、夜中専門員を配置することによる、きめ細かな生徒指導を研究するため。</li> <li>・日本語を初めて学ぶ生徒や小学校の学習内容から学ぶ必要がある生徒の指導における教職員や夜中専門員の配置の在り方を研究するため。</li> <li>・外国籍生徒の在留資格や就職状況について校内研修を行い、卒業後の高校進学などのキャリア形成について展望をもつことができる進路指導について研究するため。</li> <li>・他市町村の夜間中学校との交流を通じ、夜間中学共通の課題や教材・カリキュラムについて研究するため。</li> </ul> <p>VI. その他、夜間中学における教育活動充実にに関すること</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経済的な負担の軽減による効果的な学校行事や校外活動等の在り方について研究するため。</li> <li>・ 近隣の定時制高校への見学を行うことで、卒業後の進路について考えさせる場面をつくるため。</li> </ul>
調査研究の成果	<p>I. 教育課程に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年齢、学年、国籍、未卒・既卒、に捉われず、識字力と日本語理解度を尺度に、4つにコース分けをして教育課程を編成することによって、多様性を包括した教育課程を実現できた。</li> <li>・ 学習旅行、総合学習発表会、校内作品展等の行事と文集作成の取組によって、表現する場を作り出し、主体的・対話的で深い学びを促すことができた。</li> </ul> <p>II. 広報・相談体制の充実に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本市及び近隣の市町に、入学者募集情報を広報に掲載することを依頼した。その結果として掲載された記事を見て、初めて本夜間学級の実在を知って、入学希望の意思を伝えてこられたという方が5人、来年度入学予定である。</li> <li>・ 一方、広報掲載という単純文字情報では、識字力の面で課題を持つ方には情報が届きにくい現実がある。このような方々に口コミで情報が届くことを期して、本市市役所1階ロビーの大型モニターで、入学募集情報をフラッシュで載せていただいたり、ポスター掲載依頼を広範囲に展開するなどして、できるだけ多くの一般の方々の記憶にも情報が残るように工夫した。</li> <li>・ 外国籍の方の入学希望面談時、学期末個人懇談、進路懇談、内科健康診断時は、必ず通訳者を派遣してもらって同席の上で実施した。このことによって、入学後のコース編成、学習指導、生活指導、健康指導、進路指導上の配慮事項等をきめ細かく把握することができた。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒に経済契約的な書面を求める場面（具体的には日本スポーツ振興センター加入同意、就学援助申請、一人一台タブレット導入時確認書提出）における関係書類を、それぞれ必要な国の言葉への翻訳を依頼して、外国籍生徒が契約内容を理解することを支援することができた。</li> </ul> <p>IV. 教職員の配置・研修に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 府費によって、年間12回、1回3時間、スクールカウンセラーが配置され、9回の相談予約があり、3回の相談が実施された。相談のない日には、体育、音楽等の授業に入り込んで、生徒の様子を観察して、必要に応じて、養護教諭をはじめとする教職員と情報を共有して、個に応じた、きめ細かい生徒指導に資することができた。</li> <li>・ 府費によって、年間480時間日本語指導支援員が配置され、週3日、年間で111日、主に識字力に課題のある生徒や、日本語初歩の外国籍の生徒のための教材作りや、マンツーマンでの支援を</li> </ul>

	<p>実施することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・在留資格についての外国人のための啓発パンフレット『家族滞在のままで大丈夫?』を研修テキストとして読み込み、在留資格についての一定の知識を得ることができた。このことは、（就労ビザで在留している扶養者の）家族滞在の資格で渡日してきている多くの外国人生徒の、進路指導をする上で、非常に有効であった。</li></ul> <p>VI. その他、夜間中学における教育活動充実に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・日帰りの学習旅行を実施して、学校外に学習の場を広げて、普段できない体験をし、普段得られない新しい知識を得る機会とすることができた。</li><li>・書写、美術、技術、作文等の生徒作品を、校内作品展をはじめ、市内各所に場を借りての校外作品展で発表することによって、表現活動を通して、自尊感情を高めることにつなげることができた。</li><li>・高校進学を希望する生徒を、近隣の定時制高校の見学に引率し、進路選択の判断材料を提供して支援することができた。</li></ul>
--	---